

自助と互助

と公助

児童民生委員
代表 平田 充孝

ごく普通に市民生活を営んでいても、不慮の出来事、事故や災難や他人との

いろいろな問題に巻き込まれることがあります。我々は「自分のことは自分で」という考えで多くの問題は自助努力、例えば保険を掛けるなどして解決しています。

ところで、「自分たちの地域を自分たちの力で住み良くしていこう」と、いう動きが、最近高まっています。当地区でも「みんなが元気で仲良く楽しいまちづくり」を目標に「掃水まちづくり協議会」が組織されました。

この地区でもほとんどの人が地区外で働くよう

になり「隣は何をする人ぞ」化し、団地の開発による都市化、少子高齢化が進み、高齢者のみの家庭がどんどん増えています。協議会活動の「向こう三軒両隣」の復活は、いざというときに声を掛け合う「互助」の緊急課題だと思えます。

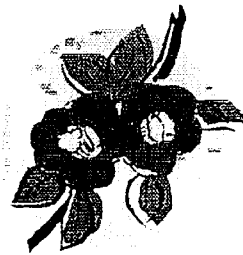


ビスの「公助」が誰も等しく受けられます。子育てや身体に障害がありいろいろと困って見える方も同様です。「公助」については積極的に市役所の福祉課や地元の民生委員にご相談ください。地元には各自治会に必ず民生委員が配属されています。不明なことは市民センター（電話二八―二六七五）や自治会関係者にお尋ねください。



民生委員は、「地域の方々の生活状態を適切に把握し、援助を必要とするものが福祉サービスを利用できるよう、必要な情報の提供や援助をする」を任務とし、「高齢者世帯」、「障害のある人やその家族」、「母子家庭」など福祉サービス推進の観点から各ご家庭の訪問を実施し、お話を聞かせていただくことがあります。その節にはご協力をよろしく願います。

ます。また、民生委員には、守秘義務が課せられています。相談内容などは家族を含む誰にも漏らすことは絶対にありません。安心してどのようなことでもよろしいのでご相談をお待ちします。



会員より

「掃水まちづくり協議会の運営」について 提言

豊原町 園部 勉

昨年「掃水まちづくり協議会」が発足しました。しかし、その内容は広範囲過ぎて、しかも、組織が肥大化し、総花的な感じで、「誰が」、「何を」、「どのように行うか」というイメージが

どうも湧きません。ピンと来ていないのが実感です。現在、地域社会の課題は山積していると思います。その中でも「少子高齢化」と「青少年の育成」の問題が最重要課題と考えています。このような環境下で具体的に何に取り組むかが、「まちづくり協議会」の担うところと考えます。

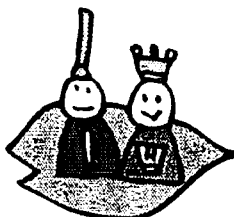
例えば、「高齢化社会に立ち向かい何ができるか」と、自問してみると、一人暮らしのお年寄りの家を毎日ボランティアが訪問し病気ではないか、元気で暮らして見えるか、あるいは何か不都合な点はないか等と把握し、それに応えた活動をするのだと思います。これらの仕事は定年退職した健康で元気な人が奉仕精神で当たれば良いと考えます。

また、青少年の育成においても問題が多くあり、何をやるかは非常に難しい問題であります。青少年育成環境部の平成十八年度事業計画では「あいさつ運動」となっておりますが、簡単そうで難しい課題です。

私の家の前を小学生が

登下校で通ります。こちらから「お早う」と声を掛けてもあいさつが返って来る子どもは二十%以下だと思えます。最近では「知らぬ人から声を掛けられても相手にするな。」等と、教育されており、その影響かも知れません。しかし、「お早う」と声を掛けても返事をしてくれないのは残念です。家庭・地域・学校と三者が連携を取り「あいさつ運動」をしようとしているのにこんな状態では三者が無関心であることの証拠ではないでしょうか。

一方、先日、東部中の通学路を歩いていたら、部活から帰る生徒だと思いましたが、男女とも生徒の方からあいさつしてくれました。気持ちのいいものです。



以上のことは、ある一場面のことではありますが、（裏へつづく）

小学生がダンマリで、中学生の方が活発だと感じ、どうも逆だと思いました。これらは、家庭環境や親の躾によるものではないでしょうか。「あいさつをなささい」と、旗振りをしていただけでは良くならないと、思います。

以上のことから「掃水まちづくり協議会」はどんなことを企画し、どう住民に協力して欲しいのか、またそれらについて、どのような体制で行うのか方針を決め、アクションプログラムを早期に作成し、地域住民にコンセンサスを得る必要があると考えます。

お知らせ

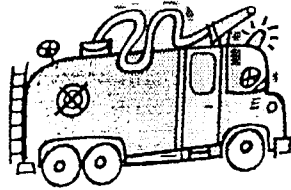
只今、消防団員募集中

松阪市消防団榑田分団
団長 中川浩一

只今、榑田分団では、四月から団員一名の欠員による募集をしています。

現在、各自治会長さんにその人選を御願ひしている

とこです。体力にも自信があり地域の仲間とともにやってみようかという方、自営業だけでなくお勤めの方も大歓迎です。是非、自治会長さんへ自薦でも他薦でも構いませんので申し出て下さい。



みなさまもご記憶が新しいかとも思いますが、当地区では昨年とこの2月に大きな火災がありました。火災は家屋や家財を失うだけでなく一つ間違えば人命を失う危険さははらんでいきます。この掃水校区で私たちの活動は皆さんの生活と直結する非常に大切な、なくてはならないものになっています。今回、地域の皆さんに我々団員の活動状況を知っていただきたたく、以下にお知らせしますので、何卒ご理解とご協力をお願いします。

榑田分団の年間活動
一、松阪市消防団の公式活

動として

○「松阪市消防訓練礼式等に関する規則」で定める訓練、操法大会への参加
防火訓練、機械器具点検活動の実施

○火災、風水害時の出動

二、榑田分団独自の活動として

○毎月第一土曜日の地域

内夜間巡回、機械器具点検の実施

○榑田納涼大会の警備の実施

○防災啓発活動の実施
・毎月第一土曜日のサイレン吹鳴による啓発

・地区市民体育祭時における消防車展示による啓発

○地区防災訓練参加・指導の実施

○年末(十二月二十九日、三十日)地域内夜間巡回の実施

三宅公民館館長の取材より

その一
掃水幼稚園へ伊賀町の獅子舞が訪問

二月六日伊賀町の獅子舞

が幼稚園へ出前を致しました。



訪れたのは伊勢神楽保存会「掃水更舎」の皆さんで、園児たち(さくら組十名、すみれ組十五名、零歳から三歳の親子)が一年間、病気や怪我をせず元気に過せるようにとクラスごとに一人ずつ獅子頭で頭を噛んでもらいました。



みんな「わあーわあー」と言いながら大騒ぎ、中には大泣きの子ともさんもいて大変でした。でもみんな大

変身しそうで、分れるときには大きな声で「ありがとー」と言っていました。

その二 榑田地区福祉会 表彰される!

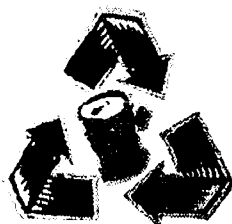
榑田地区福祉会では榑田市民センター横で平成七年からアルミ缶の回収事業を行っています。これは各自治会が回収したものをセンターに集め、老人会が当番になって缶の選別(アルミと鉄)や整理(不要なものを取り除き)を行っています。平成十七年度は二、八五八キログラム(缶六十個で一キログラム)を、平成十八年度は二、九五三キログラムと大変多くの回収をしました。

またこれらの売上金は、榑田福祉会が一人暮らしの方等への給食サービス(年二回)や長寿を祝う会、在宅介護者の集い、小学校児童との昔遊び活動などに使っています。

今回は、本年度アルミ缶の回収活動を続けている全国六十五の個人や団体が表彰され、県内からは榑田の福祉会が選ばれまし

た次第です。

二月十四日、東京のアルミ缶リサイクル協会事務局から國吉秀明部長が来松。榑田市民センターで感謝状贈呈式が行われ、中西義彦福祉会会長が賞状と副賞として五万円を受け取りました。今回の表彰は、



掃水校区老人会の継続した活動はもとより地域の皆さんのご協力があったことと大変感謝しています。今後ともアルミ缶の回収にご協力をよろしくお願ひします。

回収方法メモ

アルミ缶は潰さずそのまま結構ですのでビニール袋に入れてお出しください。そのとき、中のものは完全に捨ててください。また、ビン類、ペットボトルはそれぞれ別の袋に入れて資源回収に、スチール缶、スプレー缶、乾電池などは燃えないごみ収集日に出してください。